夜鷹と夜警

脚本　福原充則

【登場人物】

役者①　中田政雄（中田造園の社長）／涼花（ベテランの風俗嬢）

役者②　中田一政（政雄の息子）／半被の女２／氏田（風俗店の店長）／万田（警察官）／藤巻（佐恵の彼氏）／アフリカ・バンバータ

役者③　吉貫佐恵（地元で有名な政治家・吉貫の娘）／メガネの女２（糠岡の部下）

役者④　沈丁花（政雄の会社の部下）／半被の女３／糠岡（吉貫の秘書）／自警団／江古田

役者⑤　半被の女／メガネの女（糠岡の部下）／高梨（江古田恭作のマネージャー）／イザベラ

役者はいくつもの役を演じる。
セットもいくつもの場面を描く。
素舞台でもいいかもしれないし、全ての場面を満たす抽象的なセットでもいいかもしれない。あるいはブレヒト幕を活用してもいいかもしれない。

開演時間になって、祭り囃子が聞こえてくる。
ゆっくりと暗転。

1.「吉貫祭り」の会場（１９時）

明転。
どうやら群馬のとある町のようだ。
鉄管の先にスピーカーがついていて、そこから祭り囃子のテープが流れている。
スピーカーの下に、中田一政が立っている。
中田一政、ハンカチで汗を拭いている。

声　「…（祭り囃子の合間に）吉貫祭りへようこそ。こちら第二会場では、美味しい美味しい出店の他、歌謡ステージにて歌手の江古田恭作さんによる…、」

と、半被を着た女が通り過ぎて行く。

一政　（呼び止めて）すいません、

半被　（満面の笑みで）あ、今、忙しいんですけど、なんですか？

一政　…ごめんなさいね。実行委員の人だよね？

半被　（満面の笑みで）はい。実行委員なんで忙しいんです。

一政　うん。忙しいとこ申し訳ないんだけどさ、これ、うるさくない？

半被　はい？

一政　本番は明日でしょ？今から流さなくてもよくない？

半被　それはちょっと私個人の判断では…、

一政　あ、そう。ありがとう。

半被　（満面の笑みで腕時計をチラチラみる仕草）

一政　…忙しいんだよね？行ってください、すいません。

半被の女、去っていく。

一政　…腕時計してなかったじゃねぇか。

一政、じっとスピーカーを見ていたが、辺りを気にしつつ配線を抜く。音、止まる。

と、石灯籠を抱えた沈丁花がやってくる。

一　政　あ、沈丁花さん。
沈丁花　おぉ、一政君。
一　政　…なんでそんなもの持ってくるんですか？
沈丁花　軽トラいかれたのよ。会社に直す金ねぇっていうしさ。
一　政　それ以前に、仕事はだって、全部あれだって聞いてますよ？
沈丁花　（声を潜めて）だからダマだよ、ダマ。社長が頭下げて、受注した会社に俺を雇ってもらったんだよ。
一　政　…で、親父は？
沈丁花　社長？…うーん、
一　政　連れてきて下さいってメールで…、
沈丁花　いや、居場所は知ってるけどよ。
一　政　どこですか？
沈丁花　ね、これ持ってる俺と立ち話しちゃう？
一　政　すいません、一旦、下ろしてもらって、
沈丁花　下ろしたら、もう持ち上がんねぇよ。
一　政　じゃあ移動しながら。ね？

一政と沈丁花、去りかけて、

一　政　で、親父は？

沈丁花　…関越で２時間半くらい？

一　政　え？

沈丁花　まさか東京から来ると思わないから教えたのに。

一　政　もう来ちゃいましたから。

沈丁花　このまま帰った方がいいよ。

一　政　どうして…、

沈丁花　見てらんねぇからだよ。

一　政　は？

沈丁花　今な、社長、カッコ悪りぃぞ？

ブレヒト幕が横切り、一政と沈丁花を消していく。

幕が通り過ぎた時には、中田政雄が土下座している。

2．吉貫健三事務所・前（２０時）

政雄は腰に携帯用の蚊取り線香入れをぶら下げている。

政雄　…（顔を上げ）中田政雄でございます！どうか、どうか、立ち止まって頂いて…、あぁ…ありがとうございます。吉貫先生！、本日は４年前の私の大変な不手際を改めてお詫びすると共に、えー、（アンチョコを読んで）不手際の半分は誤解が誤解を呼んだ末のものであることをご理解頂きたく…、…もう少し汗かいてた方がいいか。

政雄、霧吹きで自分の顔を濡らす。

そこへ吉貫佐恵がやってくる。

政雄、気配を察して頭を下げ、

政雄　…中田政雄でございます。どうか、どうか、立ち止まって頂いて、

佐恵　…。

政雄　ありがとうございざ…、（佐恵であることに気づいて）あぁ…、

佐恵　（微笑んで）父なら今日はもう戻らないと思いますけど。

政雄　あ、いえ、それはもう佐恵さんでも。本日は４年前の大変な私の不手際を…、

佐恵　聞いてましたよ。

政雄　え？

佐恵　あ、聞こえてきちゃったんで。「ご理解頂きたく」の続きからで大丈夫です（と微笑む）。

政　雄　（立ち上がりながら）えー、ご理解頂きたく、こうして…、

佐　恵　立つんですか？

政　雄　はい？

佐　恵　父には土下座。私が相手だと立ってお話しになるんですか？

政　雄　あ、いえ、そんな（慌てて座ろうとする）、

佐　恵　いいですよ、お立ちください。

政　雄　いえいえ、

佐　恵　お立ちください。これ以上、聞くつもりもなくなりましたし。

政　雄　…。

佐恵、去りかける。

政　雄　…あの、吉貫先生はまだ怒ってらっしゃるんでしょうか？

佐　恵　さぁ。父に聞いてください（再び、去りかける）。

政　雄　佐恵さんは？

佐　恵　はい？

政　雄　佐恵さんは怒ってらっしゃいますか？

佐　恵　…中田さんは、正しいと思うことをされたんでしょう？

政　雄　いえ、その、

佐　恵　ご自分の正しさに自信を持って頂かないと、迷惑をかけられたこちらもやりきれません。

政　雄　…はい。

佐　恵　私はあなたの正しさを尊重します。

政　雄　そう言って頂けると、

佐　恵　父が正しいと思ってやったことを、あなたが警察に告げ口すべきことだと思ったように、人それぞれの正しさがありますから。

政　雄　……あの、佐恵さん、

佐　恵　父のことを「市長よりも力を持った裏市長だ」と、あなたが言ったというのは本当ですか？

政　雄　私は言いませんよ、…そんな、あの、私の口が言っただけで、

佐　恵　あなたのお口が言ったんですね？

政　雄　まぁ無論、私のお口の責任者は私ですので、監督不行き届きと言われればそれまでですが、

佐　恵　責任者の自覚はあると？

政　雄　…はい。ただ、私のお口の意図したところはですね、吉貫先生がそれだけ政治的手腕に優れた方だという、

佐　恵　失礼します。

佐恵、去ってしまう。

政雄、１人残って、汗を拭き、タバコを取り出すが、火をつけるのをやめて、

政　雄　…季節じゃないな。

そこへ一政と沈丁花が現れる。

一　政　…親父。

政　雄　てめぇ、この野郎…、見てやがったな？

一　政　あれが吉貫の娘かぁ。

政　雄　恥ずかしいじゃねぇか、知らん顔して通りすぎろよ！

一　政　…うるせぇな、帰るぞ。

政　雄　沈丁花、てめぇは仕事終わったのか？

沈丁花　終わりました。

政　雄　よし、じゃあお前も来い。

沈丁花　はい。

一　政　帰るんだよ。

政　雄　脅迫電話がな、祭りの執行部にかかってきてるらしい。中止にしないと火、つけるってな。

一　政　なおさら帰らなきゃ。
政　雄　そこで志願者を募って夜回りしてるらしいんだ。これに参加しない手はないぞ？
一　政　聞いてるよ。
政　雄　え？
一　政　だから止めに来たんだよ。
政　雄　（沈丁花に）お前が喋ったのか？
沈丁花　（渋く）…社長、俺はこう見えて、めっぽう口が軽いんすよ。
政　雄　（唖然）
一　政　徹夜で警備する年じゃないだろ。
政　雄　昼寝は存分に取ってきた。
一　政　…親父に志願されたら向こうが気を遣うんだよ。
政　雄　え？
一　政　またなんか告げ口されるかもってビクビクするだろうし。
政　雄　あのな、昔の俺とは違うんだ。もう賄賂だろうが談合だろうが中抜きだろうが、何を見たって告げ口なんかしない。見て見ぬふりというのを覚えたぞ。
一　政　陸上競技場の整備の入札だけどさ、
政　雄　（カッとして）またなんかやりやがったか？
一　政　…（しらけた目）。
政　雄　（ハッとして）…見て見ぬふり聞かぬふり。

一　政　ほら、帰ろう。

政　雄　…。…（突然走りだす）

一　政　あっ！

両サイドから幕が現れ、一方は政雄達を消す。
どちらの幕も、すぐに出てきた側へ引っ込む。
と、逆サイドに椅子に座った佐恵が現れる。

3．吉貫健三事務所・室内

佐　恵　…。

と、半被を着た女が現れ、

半　被　佐恵さん

佐　恵　…なに？

半　被　あ、携帯、着信してませんか？

佐　恵　…（携帯を取り出す。バイブ音が聞こえる）本当だ。よくわかったね。

半　被　耳だけが取り柄でして。
佐　恵　そう。（画面をじっと見ている）……。
半　被　…出ないんですか？
佐　恵　え？

と、半被を着た女２・３が現れ、

半被２　バカね、男に決まってるでしょ？
半　被　あ…、
半被３　佐恵さんくらい魅力的なら男なんかとっかえひっかえなんだから！
半被２　（大きく納得）
佐　恵　あのね、
半被３　それともとっかえずひっかえずですか？
佐　恵　は？
半被３　とっかえずひっかえず、もう同時に、
半被２　３Ｐってこと？
半被３　バカ、下品！佐恵さんの前でそんなこと大きな声で！
半被２　（小声で）３Ｐってこと？
半被３　（小声で）もちのロン！

半　被　（絶句して佐恵を見る）

佐　恵　信じないでね。

半被２　はーい、（ニヤニヤと）信じない、信じない、信じない（指で３）。

佐恵の携帯に再び着信。

佐　恵　…（呆れて笑って）電話に出るので、席をはずして頂いてよろしいですか？

半被一同　承知いたしまガールでーす！

半被の女達、去っていく。

佐　恵　（電話似出て）…なに？…さぁ？、祭りだよ、お父さんの。…え？明日？…そうだよ、本番は明日だよ。でもステージのアテンドの準備もあるし、実行委員は頼りないし、…え？好きだよ！、愛してんよ！、…じゃなかったらとっくに切ってるわ、こんな面倒な電話。お前は私に愛されてんだよ、気付よ、バカ！（切れた）あ！

佐恵、携帯を仕舞いつつ、

佐　恵　…切るタイミングおかしいだろ。

と、再び着信。

佐　恵　かけ直すなら切るな！！！、（すぐに人違いに気付き）吉貫佐恵でございます。…え
え、…はい、お世話になっております。…はい。…あ、父は今、出ておりまして。は
い。…はい？あ、そちらにいる？……え？…すぐ行きます。

佐恵、顔色を変えて飛び出していく。

と、入れ替わるように政雄が現れる。

舞台は夜の路上になる。

4．とある路上（２１時）

政雄、辺りを見回している。

と、半被の女達が現れる。

政　雄　あの、すいません。

半　被　はい？

政　雄　夜回りの方ですよね？

半　被　夜回り？

政　雄　半被はどこで配ってるんでしょうか？

半　被　え、なんですか？

政　雄　ですから私も放火魔、許すまじ、という、ね？、はい。

半被２　放火魔？

半　被　（半被２・３に）行こう。

政　雄　そんなそんな、冷たいじゃないですか。

半　被　ごめんなさい。忙しいんです。

政　雄　手柄を一人締めですか？（言い直して）三人締めですか？

半被２　…あの、後援会の方…？

政　雄　方ですよ。あなた方よりずっと長い間、後援会に属しております。

半被３　もしかして植木屋の…？

政　雄　中田造園です。植木以外もやってます。

一　同　（顔を見合わせる。噂を知っているようだ）

政　雄　（察しているが、笑顔で対応）

半　被　…ちなみにお役目は？

政　雄　はい？

半　被　後援会の方、みなさん、お役目を割り振られていると思うんですが…、

政　雄　同じ夜回りの、

半　被　私達は実行委員のゴミ分別隊です。

半被２　燃える、燃えない、缶、瓶、資源、ペットボトル！

半被３　私達に分別できないゴミはなし！

政　雄　（無視して）半被をください（と脱がしにかかる）

半被３　ちょっと！？

半　被　セクハラ発見！（ホイッスルを吹く。音でない）

半被２　壊れてるじゃない。

半　被　こういう笛なのよ。

半被２　は？

政　雄　誤解ですよ、半被がないと仕事にならないでしょう？

半被３　でも夜回り隊なんてあったかしらん。

政　雄　注意は回ってますよね？犯人の目星は？どうせ利根川を渡ってきた連中でしょうけど。

半被２　（顔色を変えて）どういうことですか？

政　雄　ですから、

半被３　川向こうの連中がなにか企んでるんですか？

政　雄　さぁ。その、執行部に電話があって、それで…、なにも聞かされていない？

半被一同　…、

政　雄　（軽く見下して）あぁ、まぁ、分別隊ですもんね。とにかく半被を下さい。

半被３　でも…、

政　雄　下さいってば！

政雄、掴みかかる。

もみ合う一同。

半被の女、鳴らない笛を吹き続ける。

半被２　あんた、それ、いいから、こっちを、

半　被　来た！

半被２　え？

コウモリの大群がやってきて、政雄を襲う。

半被２　どういうこと？

半　被　知らないの？コウモリ笛。

半被２　知らないわよ。誰も知らないわよ。

半　被　１２００ヘルツの超音波で、

半被３　蘊蓄よりも逃走よ！
半被・半被２　えぇ！

半被の３人、逃げていく。
政雄はなんとか半被を手にいれつつも、コウモリと格闘し続けている。

政　雄　３０分ほど格闘するうちに私達はお互いを理解し合い、休戦にこぎつけた。

コウモリ、政雄の腕にぶらさがる。

政　雄　ヤマシタと名乗るコウモリは、自らの哀しい境遇を語り、その物語に私は痛く共感したし、共感されるということを知らなかったヤマシタは、ひとりぼっちから解放されて少し泣いていた。ヤマシタが、共感などまやかしであるとかないとか、共感がまた別の孤独を誘発するとかしないとかを知ることになるのは、もっとずっと先のことだ。今はまだ１人と１匹、共にお月様を噛みしめては、溢れる果汁と香りを楽しんでいた。

佐恵が現れ、モノローグを引き継ぐ。

佐　恵　月ときたら大したもんだ。見上げるたびに別の場所にいる程働き者だし、別の場所に

いるのにすぐに見つけられるよう寂しがり屋に心を砕く。お天道様が作る影は態度がでかくてこちらを無視するばかりだが、月明かりで出来た影は、小さな声でも饒舌で、おまけに相づち上手で、１人言にリズムを作る。

佐恵、立ち止まって、

佐　恵　「（よく読む本の一節をつぶやき）」…繰り返し読んだ本の一説を月に捧げる頃には、そこはもう町外れの怪しい店だ。

その瞬間、そこは町のはずれの色街にある店だ。

5．町はずれの風俗店（２１時半）

支配人の氏田が現れる。

氏　田　先生のお嬢さん？

佐　恵　吉貫佐恵です（と名刺を出そうとする）。

氏　田　（制して）先生は、うちじゃ〝先生〟とだけ呼ばれてたんでね。あんたも〝お嬢〟とだけ呼ばせもらうよ。

佐恵　…はい。

別エリアにシーツがかけられた死体が現れる。
死体は裸足の足しか見えず、後は袖中に隠れている。

氏田　…確かめるかい？

佐恵　（うなずく）

氏田、シーツをめくる（客には足しか見えない）。

佐恵　…。

氏田　まだ勃ってんだよ。このままじゃ棺の蓋が閉まんねぇな。

佐恵　どういう状況だったんでしょうか？

氏田　どうもこうも、こういう店だからな。そういうことだよ。

佐恵　…。

氏田　相手してた女の子、呼ぼうか？

佐恵　（うなずく）

氏田　（奥に）おい、

かなりベテランのソープ嬢、涼花が現れる。

涼　花　涼花でございます。

佐　恵　…え？

涼　花　あ、涼花でございます。

佐　恵　（氏田を見る）

氏　田　涼花ちゃん。ウチの№２４

佐　恵　…ぜんぶで何人いらっしゃるんですか？

涼　花　２５人です。

佐　恵　下にもう一人…。

涼　花　この方が先生の…、（じろりと佐恵を見る）

佐　恵　…？

氏　田　そうだよ。お嬢に状況説明してあげて。

涼　花　はい、吉貫先生はいつもと変わらない様子ではしゃいでらしたんですが、私が秘技・おしょろこまを披露した際に、突然、がっくりと…、

佐　恵　…おしょろこま？

涼　花　はい。こう…、身体と身体を、えー…、説明が難しいですが、…店長、ちょっとお体、拝借。

氏　田　え？

涼花　あの、ここがこう、あれですよね。で…、

と、氏田と涼花、よくわからない説明のもと、身体を絡め合う。

佐恵　もういいです、わかりました。

氏田　あ、そう。で、どうする？ここで死んだことにするのはまずいだろ？

佐恵　えぇ。

氏田　まぁ…、（金をせびる手振り）条件次第で協力するぜ。

佐恵　…。

と、糠岡が飛び込んでくる。

糠岡　…糠岡、只今到着致しました。

佐恵　遅いですよ。

糠岡　先生は？

佐恵　（死体を指差す）

糠岡　先生！（と泣きながら抱きつき）まだ志半ばでさぁ…ん…、にぃ、イチ！っと（さっと立ち上がり）糠岡、切り替えました。死体を移動しましょう。この店はまずい。

佐恵　それをお願いするつもりでした。

糠岡　その前に。公表は明日の朝イチでよろしいですね？。その後、〝祭りの中止もやむなし〟と噂が広まるのを待って、正午。佐恵さんからのコメントを出します（と紙を渡す）

佐恵　（読んで）…「父の意志を引き継ぎ、祭りは予定通り…」

糠岡　理解のある娘さんだと人気が上がります。

佐恵　だといいけど。

糠岡　そのまま１５時の開催宣言も佐恵さんに立って頂きます。佐恵さんを認知していない層へのアピールにもなるでしょうし、半日で理想的な継承が済みます。

佐恵　なるほど。

糠岡　その後、実行委員のテントに各種団体の上層部が見舞いに来ると思います。半数以上が女性蔑視の連中です。対応としては、３人づつに招き入れ、うち一人をやり込め、残り２人のプライドは保ったまま、佐恵さんの力をみせつけます。どいつをやり込めるかは都度都度、私からサインを送ります。（糠岡、突然変な仕草）

佐恵　…え？

糠岡　あ、サインです。

佐恵　…。…なるほど。

糠岡　職場の方には早めに辞表を出してもらって、次の選挙…、

佐恵、その場を離れようとする。

糠　岡　佐恵さん？

佐　恵　ちょっと外で、…泣いてきます。

佐恵、去りかける。

糠　岡　佐恵さん。

佐　恵　はい。

糠　岡　ここらは先生の威光も届いていない地域です。お気を付けて。

佐　恵　…ありがとう。

佐恵、去りかける。

涼　花　あの、お嬢さん。

佐　恵　はい。

涼　花　蓋が閉まらないので、先生のアレ、ぽっきりいっちゃっても？

佐　恵　ご自由に。

佐恵、店を出ていく。

同時に、店のエリアは幕に隠される。

6．店の外～店近くの路上（２２時半）

佐恵、携帯を取りだし、どこかへ電話をかける。

佐　恵　…、……出ろよ！（と電話を切る）

佐恵、店から、そっと逃げ出す。
同時に反対側へと移動する幕。
途中で、幕の後ろから半被の女達が現れる。
幕、消えきって、

半　被　佐恵さん？

佐　恵　！、…あぁ、あれ？

半被２　探したんですよ。

半被３　会えてよかったぁ。

佐　恵　どうしたの？

半被２　どうしたも京唄子もないですよ！

佐　恵　え？
半　被　川向こうの連中が祭りに火をつけて無茶苦茶にするって計画が。
佐　恵　…誰から聞いたの？
半　被　あれ、誰？
半被２　誰だかわかりませんけどね、実際にこの子が半被を奪われたんですよ、スパイに！
半　被　どさくさに紛れて、胸まで揉まれそうになって。
佐　恵　スパイって？
半被２　私も財布すられそうな感覚に陥っちゃった。
佐　恵　え？
半被３　それならまだまし。私なんか、あの後、家まで尾けてこられて、
一　同　えぇ！？
半被３　ドア開けた瞬間にガッてきて、部屋の中にドーンって押し倒されて、もう必死で叫んで助けを呼ぶことになったらどうしようって考えたら怖くて怖くて。
佐　恵　…うん？
半被一同　佐恵さんも気をつけて！
佐　恵　それを伝えるために、わざわざ？
半被２　だって私達、ゴミ分別隊の前に佐恵さん親衛隊だもんね！
半被・半被３　ね！
佐　恵　ありがとう。

佐恵、去りかけて、

佐　恵　あ、ここで私と会ったことは誰にも言わないで。

半　被　いいですけど、…どうして？

半被２　バカね、男に決まってるでしょ？

半　被　あ…、

半被３　佐恵さんくらい魅力的なら男なんかとっかえずひっかえずなんだから！

半被２　（小声で）３Ｐってこと？

半被３　（小声で）もちのロン！

佐　恵　…行くけど、みんなも気をつけてね？

半被一同　承知いたしまガールでーす！

佐恵、去っていく。

同時に幕が現れ、半被２と３を消していく。

半　被　あーぁ、佐恵さんみたいになりたガールだなぁ。…ね？

と半被の女が振り返った時には、幕は通り過ぎており、幕裏には半被の女２と３が、

一政と沈丁花に変わっていた。

7．国道脇の草むら（23時半）

半　被　…あれ？

沈丁花　…一政君。

一　政　うん？（後ろを向いたまま何かをしている）

沈丁花　まずいよ、一政君。

半　被　なにされてるんですか？

一　政　（振り返ると、手にライター）

半　被　…出た。ちょ、ね、みんな、出た、放火魔だよ！、……いない！…なんで！？

一　政　大丈夫？

半　被　私、本当は3人組の役なんです。なのに気が付いたら、そのうち2人が、別の役をやってるんです！

沈丁花　そこまでわかってんなら、そんなに慌てんなよ。

半　被　…確かに。

一　政　あの、誤解しないでね。俺達は放火魔のふりをしたいだけで、放火魔じゃないからさ。

という台詞の合間に半被の女、メガネをかけ、携帯を取りだし、メガネの女になる。

メガネ　…はい。…なにしてるって、あんたこそ、…え？いるの？

一　政　…あの、聞いてます？（と言いながら去っていく）

沈丁花　一政君、あれもう別の役だよ。

一　政　あぁそうか。

と、一政、再びしゃがみ込んでその辺のものに火をつけようとする。

沈丁花　お、お、お、もういいっすよ。通報されるとこだったんすよ。

一　政　親父をおびき寄せないと。

沈丁花　それ以前の問題だろうがよぉ。

一　政　嫌なら帰ってくださいよ。

沈丁花　バカだな、俺ぁ、社長をそこそこ尊敬してんだよ。てっぺん回るまでは、付き合うよ。

一　政　あと３０分じゃないですか。

沈丁花　労働者は朝が早いんだよ。

一　政　だから帰っていいですよ。

沈丁花　…気が済むまでやらせてあげりゃあいいでしょ？

一　政　本気で言ってます？

沈丁花　え？うん、まぁ…、
一　政　気が済むことなんかあるんですか。
沈丁花　そりゃ社長だって、一晩夜回りして、それでも受け入れてもらえなければ諦めるでしょ。
一　政　ほら、そっちでしょ？
沈丁花　え？
一　政　〝諦める〟わけでしょ？〝気が済む〟んじゃなくて。
沈丁花　…なんすか？
一　政　気なんてものは済まないんです。言葉の言い換えです。好きじゃないです、そういうの。
沈丁花　…うーん？、まぁなんにせよ、社長も気持ちよく諦めたほうがいいだろ。それには、
一　政　また落ち込むから、親父は。「どうしてあの時、諦めてしまったのだろうか」って、酔って泣くんですから。酔って泣いて翌朝ケロリならいいですけど、でも、
沈丁花　社長はクソ真面目だからな。
一　政　そう！引きずるんですよ。だったらね、僕の横槍で止めちゃった方がいいんです。「なんだお前、あの時止めやがって！」って怒ってる方が元気なんですから。
沈丁花　…クソ真面目なところが好きなんだよ。
一　政　損するだけですよ。真面目に生きるには毎日は世知辛すぎます。
沈丁花　でも適当にやりすごすには長すぎるからなぁ。

一　政　は？

沈丁花、なぜか辺りを窺って、

沈丁花　…あのよ、何事も集中してると、時間って短く感じるだろ？

一　政　はぁ、

沈丁花　だから、世知辛いくせに７０、８０年続いたりする毎日ってやつを、ガッと集中して過ごして、体感時間短めで終わらせたいわけですよ、俺は。

一　政　…集中してるんですか？

沈丁花　してるよぉ。仕事に、趣味に、恋愛にガッガッガッて。一日が８時間くらいの体感でいけてるね。

一　政　…楽しそうじゃないですか、その毎日。

沈丁花　言ったろ？楽しくないから、そうしてんだよ。…！？

一　政　…どうしました？

沈丁花　あれ、社長じゃねぇか？

一　政　どれ？

沈丁花　ほら、あそこの外灯の…、

幕が通り過ぎ、政雄と外灯が現れる。

同時に一政と沈丁花は去っていく。

8．バイパス沿いの外灯の下（２４時）

ＳＥ、バイパスをゆく軽自動車。

メガネの女が現れ、政雄の様子を伺っている。

メガネの女の携帯に着信が。

メガネ　…はい。…なにしてるって、あんたこそ、…え？いるの？

後ろからメガネの女２が現れた。

メガネ２　いるよ。

メガネ　…遅い。

メガネ２　どこ？

メガネ　（政雄を指さす）

メガネ２　どうする？糠岡さん、待つ？

メガネ　私達で済ませちゃおう。
メガネ・メガネ２　（お互いにうなずき合う）
メガネ２　そこの人！
政　雄　え？
メガネ２　なにしてるの？
政　雄　あれ、本部の方ですよね？
メガネ２　なにをしているの？
政　雄　私はあれですよ、放火魔を、
メガネ　自分から言った！
政　雄　あの？
メガネ　動かないで！
メガネ２　糠岡さん、呼んで。
メガネ　はい（と携帯を取り出す）

糠岡、現れて、

糠　岡　いるよ。
メガネ２　糠岡さん、放火魔いました！
糠　岡　えぇ！？

政　雄　いやいや糠岡さん、私です。中田です！
糠　岡　（メガネ１・２に）コラ、後援会のメンバーの顔くらい覚えないと。
メガネ１・２　え？
政　雄　ようやく本部の方々と会えました。
糠　岡　詫びとけよ。
メガネ　大変失礼致しました。（メガネ２に）お詫び。
メガネ２　（封筒をだして）こちら、吉貫からのお車代を、
政　雄　…あ。
糠　岡　コラコラコラ。

糠岡、メガネ１・２を引っ張ってきて、

糠　岡　あの人の前でそんなもの出さない。中田造園ですよ？
メガネ　…それって、正直者の中田？
糠　岡　そう、正直者の中田です。さりげなくしまって。
メガネ２　（口笛を吹きながら封筒をしまう）
政　雄　…糠岡さん、
糠　岡　（手で制して）ちなみに佐恵さん、見なかったか？
メガネ２　え？

糠　岡　（知らないと察して）あぁいいや、（政雄に）なんでしょうか。
政　雄　私、夜回り隊に参加したいのですが、
糠　岡　あー…、（メガネに）隊のみんなは今、どの辺？
メガネ　まだ事務所じゃないですか？
糠　岡　動きが遅いよ。
メガネ２　（ヒソヒソと）参加を許すんですか？中田ですよ？
糠　岡　…そうか。
政　雄　…あのぉ？
糠　岡　夜回りは若い人中心にやってるんですよ。
政　雄　隅の方で大人しくしてますんで。
糠　岡　怪我されても、あれなんで。
政　雄　体力勝負の仕事してますから、
糠　岡　（無茶な理屈を語る）
政　雄　正直に言ってください。なぜダメなんですか？
メガネ　自分の胸に聞いてみなさいよ。
メガネ２　そうよ。
政　雄　心当たりがないわけではないですが、
糠　岡　あなたは曲がったことが許せないんですよね？
政　雄　またその話ですか…。

糠　岡　まぁまぁ、世の中にはまっすぐ生きる人もいれば、曲がり道をくねくねと進む生き方もある。人それぞれですよね？

政　雄　それはもう、えぇ。

糠　岡　ただ、あなたのように殊更に正義を主張するのは多様性の否定です。

政　雄　仰ることはわかりますが、もう身に染みておりますので、どうか私もみなさまと一緒に曲がり道くねらせて頂けたらと、

メガネ２　それって自分はまっすぐに生きてるって言いたいんですか？

政　雄　…。…滅相もない。

メガネ　間が空きましたね。嘘をついてる証拠（です）

政　雄　（喰って）嘘などついてま（せんよ）

メガネ２　（突如激高）彼女が意見を喋ってる最中にどうして喋りだすんですか！あなたの意見を一方的に押しつけるつもりですか？

政　雄　…。…滅相もない。

メガネ　間が空きましたね。嘘を、

政　雄　（喰って）いやですから、

メガネ２　彼女が意見を喋ってる最中にどうして喋りだすんですか！意見を一方的に押しつけるのは暴力と変わりませんよ！

政　雄　いえ、あの、

メガネ２　この暴力主義者が！（と殴る）

政　雄　痛！
糠　岡　君、君、手を出しちゃまずいよ。
メガネ２　目には目をってやつですよ。
糠　岡　君の意見、賛同しないが尊重する。
メガネ２　お互い一発づつ殴り合ったわけだし、恨みっこなしで。

メガネ２、手を差し出す。
政雄、払いのける。

メガネ２　おい！
糠　岡　冷静に！改めてお互いの意見を聞きま…、
政　雄　私は…、もう意見など持っておりません！
一　同　…。
政　雄　あ、いえ、吉貫先生の活動方針には感動しておりますよ。私は先生と意見、意志を共にして、
糠　岡　信用できないんですよ。
政　雄　なぜ！
メガネ２　自業自得でしょ。
政　雄　…。

糠　岡　（話題を変えて）…ところで中田さん。夜回りしてるってのは、どこで聞いたんです？
政　雄　どこって…、
糠　岡　この件は、一部の人間しか知らないことでして。どうしてあなたが、
糠　岡　祭りの会場で噂になっていたんですよ。
糠　岡　（メガネ１・２に）調べろ。盗聴器を持ってるかもしれない。
メガネ１・２　はい。
政　雄　そんな…、ちょっと、本当に、聞こえてきただけで、

メガネ１・２、政雄の半被を調べる。

糠　岡　なんかあったか？
メガネ２　懐にコウモリが。
糠　岡　…普通じゃないな。
メガネ２　えぇ。
政　雄　いえいえ、彼はその、ヤマシタと言いまして、友人です。
メガネ　友人？
政　雄　あ、友人というか、シンユウです。心の友と書くほうの、心友。
糠　岡　…普通じゃないな。
メガネ　…糠岡さん。

糠　岡　なんだ？
メガネ　あれ（遠くを指さす）

遠くに炎が上がっている。

糠　岡　おいおい…、結構燃えてるぞ。
メガネ２　あんなところ、燃えるようなものないですよ。
メガネ　山田うどんから南に…、５００メートルくらいですかね？
糠　岡　行くぞ。
メガネ１・２　はい。
政　雄　あの私も、
糠　岡　よし、じゃあ…、
メガネ　え！？
糠　岡　…中田さんの役目はここで待機だ。放火魔が通るかもしれない。
政　雄　かしこまりました！
糠　岡　それと佐恵さんに会ったら、連絡を。
政　雄　連絡先を、
糠　岡　（聞いてない）任せましたよ！

一同、去っていく。
入れ替わるように一政がやってくる。

一政　帰るよ。
政雄　てめぇ、…知らん顔して通りすぎろよ！
一政　恥ずかしいことしてると思ってんなら、やめろよ。
政雄　…従業員のためだよ。組合の除名も解いてもらわにゃ、
一政　人のこと考えてる余裕ねぇだろ、切り捨てろ。
政雄　お前…、そんなこと言う人間に育ったか！？
一政　そうだよ。あんたを見てたらそうなったよ！
政雄　はぁ！？……一理あるな！
一政　だろ？
政雄　…胸を張らせてやれる瞬間もあったつもりだけどな。
一政　わかってるよ。別に否定はしてない。ただの意見だよ。
政雄　…。
一政　もう一個、意見言うとな、誰に頭を垂れるかは選べよ。吉貫はあんたを許さないだろうし、二度と仕事もくれねぇよ。
政雄　それは、わからんだろ。
一政　東京、来る？

政　雄　なんだいきなり。
一　政　田舎は王様の顔が見えやすくてつらいだろ。都会は自分が誰の奴隷かわかりづらいから、過ごしやすいよ？
政　雄　どうかな。東京から流れてきた人間に、散々痛い目、遭わされてきたからな。
一　政　…キャバ嬢にダマされるのはあんたが悪いんだよ！
政　雄　なんでキャバ嬢って決めつけるんだ！
一　政　違うのかよ！
政　雄　そうだよ！
一　政　そらみろ！
政　雄　…東京は性病が蔓延してるぞ。
一　政　一応、最後までいけてんのかよ。すげぇな！
政　雄　（笑う）
一　政　おうおう、その顔だよ。そういう顔しててくれよ。
政　雄　あ？
一　政　なにが「中田さんの役目はここで待機だ」だよ。小学生がやるような除け者扱いされてよ。
政　雄　しかし、お役目はお役目だ。
一　政　だから役目なんてないんだよ。
政　雄　放火魔が通るかもしれない。

一政　放火魔なんかいねぇよ。
政雄　実際にあそこで火が、
一政　あれは俺だよ。
政雄　ん？
一政　俺がつけた火だよ。放火魔じゃない。

と、ライターを出す。
政雄、慌てて取り上げて、辺りを伺う。

政雄　バカ、（ポケットにしまって）なんでそんなことしたんだ！
一政　あんたをおびき寄せるためだよ。
政雄　…ほっといてくれ。夜回りすると誰かに迷惑かかるのか？
一政　あんたに迷惑かかるんだよ。
政雄　は？
一政　傷つくだろ。
政雄　…。
一政　四年前だって傷ついてたじゃねぇか。
政雄　…。
一政　一生懸命の姿を見せれば、誰かがこっそりと「実は私も我慢の限界で。応援していま

すよ」なんて言ってもらえると思ってたんだろ？

政雄　思っていたら何が悪い。

一政　いつかわかってもらえるなんて考えで抗うなよ。

政雄　…。

一政　だから、ね？、東京で一緒に暮らそう。

政雄　気持ち悪りぃ。

一政　今度、府中って町にマンションを買うんだ。多摩川沿いのいい場所だよ。近くに競馬場があるから老後の趣味には持ってこいだろ。少し足を伸ばせば競艇場も競輪場もある。なにより町の真ん中に刑務所がドーンとある。

政雄　大丈夫か、その町。

一政　大丈夫だよ、すぐに慣れる。

政雄　…俺は利根川で充分だ。

一政　とにかく帰ろう。

コウモリが「キイ」と鳴いた。

幕が一政と政雄の間を走っていく。

一政と外灯は消えている。

政雄　気がつくと、私は息子を巻いていた。

ＳＥ、軽トラが通り過ぎていく。

9．バイパス沿いの歩道（２５時）

政　雄　お役目の待機場所へと戻りたかったが、田んぼをつらぬくバイパスは等間隔に外灯が並び、どれが元の外灯なのかわからなかった。仕方なく私とヤマシタは、ひとつづつ外灯のオレンジを数えて歩いた。

ＳＥ、原付バイクが通り過ぎていく。

政　雄　そのうちに同じように見えていたオレンジにも、個体差があることがわかった。オレンジ色、人参色、柿色、山吹色、マンダリンオレンジ、パンプキンオレンジ、バーミリオン、アプリコット、マリーゴールドと、少なくとも９種類の外灯が月を目指して背伸びをしていると気づいたことは小さな驚きだったし、自分が色の名前を沢山知っていたことは大きな驚きだった。

ヤマシタ　「自分で自分に驚きたい」

政　雄　というヤマシタの言葉が願望なのか諦めなのかわからなかったが、私は、私が思う方

が正解だと思うと哀しくなって、聞こえないふりをした。

と、佐恵がやってくる。

佐恵、なにかを警戒しながら、電話で話している。

佐　恵　…それと、棚に読みかけの本があるからそれも持ってきて。…いや、それどころじゃないことが起きてるんだけど、それは後で説明を、、…誰？！

外灯と外灯の間の暗がりでお互いがよく見えない。

政　雄　…佐恵さん？

佐　恵　…誰ですか？

政　雄　中田です。

佐　恵　中田？

政　雄　お口の責任者の、

佐　恵　あぁ中田さん…、

佐恵、携帯を切って駆け寄ってきて、遠慮がちに政雄の背中に隠れる。

政　雄　あの…、
佐　恵　静かに！
政　雄　え？
佐　恵　放火魔らしき人が。
政　雄　あぁ…、（苦笑いで）まぁ、それは、そのご安心を。
佐　恵　４人はいたけど、それでも安心していいですか？
政　雄　４人？…それは本物だな。…糠岡さんを呼びましょう。さっき会ったんです。あ、あなたを探していました。

と、言いながら、政雄は暗がりに進んでいく。

佐　恵　ちょっと、
政　雄　はい？
佐　恵　あっちにいるんですよ。
政　雄　お任せください。佐恵さんは連絡を。
佐　恵　４人もいるんです！
政　雄　（覚悟の表情）えぇ。
佐　恵　格闘技のたしなみは？
政　雄　以前、わんぱく相撲で優勝…、

佐　恵　やめてください。
政　雄　私は、私の忠誠心をお見せしたいだけですので、袋だたきに遭っても構わないのです
佐　恵　中田さん。
政　雄　ただし、どうか吉貫先生にご報告を。中田造園の社長は勇敢に…、
佐　恵　父は死にました。
政　雄　…え？
佐　恵　料金所の先の、…あの、女性と遊ぶお店で、
政　雄　プラチナエンジェルですか？
佐　恵　ちょっと違う名前だったと思いますけど、そこで、
政　雄　ラブドルチェ？
佐　恵　いえ…、
政　雄　ピンキークレオパトラ？
佐　恵　…。
政　雄　あ、多恋人ショコラですか？多い恋人と書いてタレントと読ませる…、
佐　恵　店名はどうでもいいんです！
政　雄　大変失礼を、
佐　恵　とにかく風俗ですよ。風俗で腹上死したんです！
政　雄　…そうですか、…吉貫先生が。

政雄、がっくりと膝をつく。

佐　恵　ですから無茶しても意味ないですから。

政雄のふところでコウモリがキイと鳴いた。

政　雄　…（コウモリを出し）ヤマシタ、俺のもとを去るなら今だぞ。

佐　恵　あの？

政　雄　俺は情けなさの許容量を超え、お前の寂しさを担ぐ余地がなくなった。お前だけが理解者だ。でも、ひとりぼっちはひとりぼっちを救えない。

佐　恵　中田さん？

政　雄　どこへ飛んでいっても、お前のことを考えてる。

ヤマシタ　「誰かに想われながら1人でいるのが一番かもな」

政　雄　お前に無力な俺だけど、遠くでいつも想っている。

ヤマシタ「約束か」

政　雄　約束だ。

ヤマシタ　「ならば、俺もお前をいつも想おう」

政　雄　約束か。

ヤマシタ　「約束だ」

佐　恵　中田さん！
政　雄　は？はい？
佐　恵　大丈夫ですか？
政　雄　…？
佐　恵　私がわかりますか？
政　雄　…佐恵さん？
佐　恵　はい。
政　雄　…佐恵さん、…佐恵さん？、…佐恵さん！
佐　恵　大きな声を出さないでくだ、
政　雄　佐恵さんがいるじゃないですか。

政雄、ヤマシタを懐にしまう。

佐　恵　…え？
政　雄　なんでも言ってください、私、佐恵さんのためならエンヤコーラです。
佐　恵　…鞍替えが早いですね。父の代わりは出来ませんよ。
政　雄　いいえ。予てより、いずれ吉貫先生の議席を継ぐに値する才覚の持ち主だと、
佐　恵　ですから継ぎませんよ。
政　雄　でも先生はもう、

佐　恵　出馬しませんから。

政　雄　それは…、糠岡さんはご存じなんですか？

バイクのブレーキ音と共に幕が入ってきて、政雄を隠す。

佐　恵　えぇ！？

幕が通り過ぎると、政雄が倒れている。
その脇に、バイクに２人乗りした女（高梨）とポロシャツの男（万田）が立っている。

万　田　…やっちゃったなぁ。

佐　恵　（政雄に駆け寄って）ちょっと、大丈夫ですか？

政　雄　…。

万田と高梨、なにやらヒソヒソ話している。
高梨、歩いてその場を離れようとする。

佐　恵　ちょっと、手伝って。…どこ行くの！？

高梨　あ、お医者さんを…、
佐恵　電話で呼べばいいでしょう！？
万田　（佐恵を見て）あれ？
佐恵　はい？

高梨、再び去ろうとする。
佐恵、慌てて捕まえて、

佐恵　ちょちょちょちょ、なに？
高梨　…痛い！
佐恵　逃げないで！
高梨　ちょっとこいつ、なんとかして！
万田　まぁまぁまぁ、大丈夫大丈夫。
高梨　なにが、「俺、バイパスは顔パスだから」だよ！
万田　嘘じゃないから、（敬礼して）佐恵さん。
佐恵　はい？
高梨　なんで田舎者のナンパなんかに引っかかっちゃったかなぁ。
万田　静かにしようよぉ、傷つくしぃ。
高梨　人のケツ触りながら運転して、じじい轢き殺して、

政　雄　生きてます…

高　梨　どうせ三日後にぽっくり死ぬんだよ！

万　田（無視して、佐恵に）あ、万田です。渋川署の。

佐　恵　はい？

万　田　非番なんで、わからないですかね？制服ないと。

佐　恵　お巡りさんに知り合いいないです。

万　田　いや先生にお世話になったりしたりで。僕、署内では中村派なんで。

佐　恵（顔色を変えて）……あぁ。

万　田（改めて敬礼）よかったぁ。（高梨に）ＯＫ、ＯＫ。

高　梨　…あんた、警察官だったの？

万　田（笑いながらシッと身振り）

佐　恵　…これ、２人乗りしていいバイクですか？

万　田　これはダメなヤツですね。

佐　恵　…臭い！

万　田（苦笑い）

佐　恵　飲んでますよね？

万　田　いやいや、缶ビールですよ？

高　梨（三度、去りかける）

佐　恵　動かないで！

佐恵、高梨の腕を掴んで、

佐　恵　中田さん、警察呼んで。

万　田　だから佐恵さん。僕が、

佐　恵　救急車と、あなた以外の警察官を呼んでください。

政雄がようやく立ち上がる。

政　雄　佐恵さん、私は大丈夫ですから。

佐　恵　大丈夫じゃないです、どうみても。

政　雄　本当にもうかすり傷ひとつ、…（万田に）ね？

万　田　うん。はい。

佐　恵　…。

政　雄　（小声で）中村派とは、中村副署長のことですよ？

佐　恵　…わかってます。

政　雄　先生と中村副署長といえば、

佐　恵　わかってます。

政　雄　すいません、言わずもがなでしたね。

佐　恵　…。

政　雄　ではまぁ、ここは手打ちということで。

佐　恵　…。

政　雄　佐恵さん？

佐　恵　わかってます。わかってますけど、

高　梨　あのさ、帰っていいの？

万田／政雄　ちょっと待って／少々お待ちを。

万　田　オッケーっすか？オッケーすよね？

佐　恵　…。

政　雄　佐恵さん？

佐　恵　…残念ながら、私は議席を引き継ぎませんから。これまでの暗晦（あんかい）とした関係に気を遣う必要は…、

万　田　いやいやいやいや、

政　雄　違いますよ、佐恵さん。あなたの問題ではなくて、先生と中村副署長の問題ですから。

佐　恵　ですから父はもう、

政　雄　だとしても、です。

政雄、佐恵を端に引っ張っていって、

政雄　秘密は墓場まで持ち込まないと。あなたが墓を暴くような真似しちゃダメですよ。
佐恵　…中田さんはどういう立場なんですか？
政雄　どういう…？
佐恵　だってあなたは、
政雄　（答えずに）こういうことは、お父様が、副署長と苦労して作り上げた遺産です。あなたがいらないと言えば、誰かが持ち去って使うことになるでしょう。その〝誰か〟は非常にあくどいヤツかもしれません。
佐恵　…。
政雄　ならば、誰の手にあるのが一番幸せな使い道でしょうか？
佐恵　わかりません。
政雄　わかっているはずです、聡明なあなたなら。
佐恵　…。
政雄　一人で手にするのが不安なら、私がお手伝い致しますし。
佐恵　…そういうことですか。
政雄　いえいえ誤解なさらずに。
佐恵　…ご忠告ありがとうございます。自分で通報します（携帯を取り出し）
政雄　いや、ですからね。
佐恵　…充電、…中田さん、携帯を、
万田　わかった、わかった。あのー、じゃ、せめて、この人、帰してやってくれないかな？

高梨　虫が口に入った…、
佐恵　この人も同罪ですよね？
万田　…うーん、これ、言っちゃうとあれですけど、ゲストですよ？明日のお祭りの。
佐恵　は？
万田　まずいですよね？
佐恵　何のゲストですか？
万田　なんか、歌謡ステージに出るって、
佐恵　ショーのゲストは男性です。フォーク歌手の江古田恭作さんっていう、
高梨　フォークってジャンルでくくられるのを一番嫌ってますけど。
佐恵　はい？
高梨　うちの江古田は。
佐恵　…。
万田　（高梨を指して）そのなんとかって歌手のマネージャーさん。
佐恵　江古田さんの？
高梨　あぁ、江古田の名前を出して欲しくなかったんだけどなぁ。
万田　すいません、でも、
高梨　この際だから言わせてもらいますけど、江古田はいち市町村のお祭りに出てきませんからね、普通。それをわざわざ、主催者の娘さんが大ファンだと言うから…、
万田　あらら。（佐恵を指して）その主催者の娘さん。

高　梨　え？

佐　恵　…（態度を一変して名刺を出して）吉貫佐恵です。よろしくお願いします。

高　梨　あぁ、電話でお話してますよね？（と名刺を出す）

佐　恵　（名刺を見て）あ、高梨さん。はい、何度もお電話では。

高　梨　え、新前橋の駅からも一度、担当の方と、

佐　恵　あ、あれも私です。

高　梨　へぇ…。

佐　恵　…はい。

高　梨　江古田がいい宿だって。

佐　恵　そう言って頂ければ。お湯も柔らかくて、伊香保に行くより、

高　梨　私だけ別宿でびっくりしましたけど。

佐　恵　…すいません。

高　梨　まぁマネージャーなんてタコ部屋で充分ですよね。

佐　恵　いえ、あの、予算の関係で。

高　梨　お祭りの予算ってどういう方が組むんですか？

佐　恵　…私です。

高　梨　…。

佐　恵　失礼致しました。普段は市の図書館に勤務していまして、芸能関係の常識が、

高　梨　江古田は芸能人ではありません！詩人です！

佐恵　（同時に）詩人ですよね。

高梨　…そうです。

佐恵　わかってます。私、すごいファンなんです。

高梨　それはどうも。

佐恵　中学生の時に偶然ラジオで聞いて、その頃、浜田省吾が好きだったんですけど、江古田さんは浜田省吾よりも浜田省吾っぽいって思って、江古田さんこそ本物の浜田省吾だなって感動しちゃって、で、改めて浜田省吾を聞き直したら、浜田省吾自身は浜田省吾らしさを追いかけてないってこともわかって、それはそれで省吾イズムだと思うんですが、浜田省吾の初期衝動は江古田さんの中にこそあるなって思って、改めて浜田省…、江古田さんっていいなって思って。

高梨　これ、浜省にもオファーしたでしょ？

佐恵　え？

高梨　断られたから江古田に？

佐恵　いえいえいえ…、

高梨　浜田さんのマネージャーさんとは懇意にしてますので、いつでも確認できますけど。

佐恵　…あぁ、えっと、ちょっとあの、私、普段は市の図書館に勤務していまして、よくわからない…、

高梨　いじめちゃ可哀想か。ネットに書かれちゃう。

佐恵　そんな、まさか。明日、よろしくお願いします。

高　梨　うーん、このままだと明日、本人がステージに立てる保証はないけどね…、

佐　恵　…？体調が悪いとか…？

高　梨　江古田はマネージャーがいないとチューニングも出来ない人ですから。…困っちゃいますよね。

佐　恵　中田さん。

政　雄　は？

佐　恵　どうすればいいですか？

政　雄　（察しているが）と言いますと？

佐　恵　…こういう時、その、モミ消しみたいな、

政　雄　…誰も何も頼んでいないし、頼まれて承諾した者もいない。…ということです。

佐　恵　（万田と高梨を見る）

万田・高梨　（うなずく）

佐　恵　…みなさんは、この手の罪悪感をどこに捨てているのでしょう。

政　雄　（困って万田を見る）

万　田　（なんとかして、と目線）

政　雄　…そりゃ今は罪悪感があるとは思います。でも今の気持ちを大事にしてどうするんですか？

佐　恵　普通、大事にするものだと思いますが。

政　雄　今なんてものは一瞬ですよ。佐恵さんはおいくつでしたか？

佐　恵　３５です。

政　雄　では３５年分の過去があり、きっと同じくらいの未来がある。に、対して今というのは（手を叩いて）はい、たったこれっぽっちです。（再度手を叩きながら）はい。はい。はい。

佐　恵　…。

政　雄　こんな一瞬を大事にしてどうするんですか。３５年のこれまでとこれからこそを考えましょう。今なんて、まばたきをするだけでやりすごせる長さです。

コウモリが「キイ」と鳴いた。

政　雄　「思ってもいないことを言うとヤマシタが鳴く」

高　梨　本当に私、

政　雄　（高梨を手で制して、佐恵に）風が出てきました。かすかに埃が舞ってます。あ、佐恵さんの目にも埃が…、（と言って、優しく手で誘う）さぁ。まばたきを。

佐　恵　そう言われて、私は一瞬という名の３０秒のまばたきをした。

佐恵、目をつむる。

万田、政雄に敬礼をし、高梨を連れてその場を去る。

政　雄　…以上、中田が場をまとめました。お忘れなく。では、私は放火魔の様子を見て参ります。すぐ戻ります。

政雄、佐恵に頭を下げて、その場を去る。

佐　恵　…。

佐恵、しばらくしてゆっくり目を開け、一同が去った方を見る。

佐　恵　バイパスの向こうへ去って行く３人の輪郭は、逆月光で見ると外灯や標識、ガードレールの脇の野菊や鉄道草と混じって一枚の影絵のようでしたので、誰が何を頼んで、何を承諾したのかも塗りつぶされて、私は小さく息を吐くことができました。

佐恵、ほっとしてため息をつく。

そこへ糠岡とメガネの女が現れる。

１０．　どこかの路上（２５時半）

糠　岡　…おい。

佐　恵　（振り返る）

糠　岡　いたか？

佐恵、メガネの女２になりながら、

佐　恵　誰が…？

糠　岡　誰って、佐恵さんだよ。

メガネ２　いませんね。放火魔は？

糠　岡　いないよ。エロ本が燃えてただけだ。中学生かな。

メガネ２　わかるんですか。

糠　岡　中学生ってのはエロ本を家に置いとけないから、河原に捨てるのよ。で、ただ捨てるだけじゃ不安で、燃やしちゃうの。

藤巻、現れる。大きなバックとサングラスをかけている。

藤　巻　今時の中学生はエロ本なんて見ませんて。

糠　岡　…あ、

藤　巻　スマホでちゃちゃっと検索するんです。

糠　岡　どうも。
藤　巻　糠岡さん、佐恵はどこに？
メガネ　（小声で）あの人、夜中にサングラスかけてます。
糠　岡　これで５つめの役だからな。演じ分けには必要だよ。
メガネの女達　（メガネに触れながら）確かに。
藤　巻　何を暢気に話してるんです！
糠　岡　藤巻さんこそ、心配しすぎですよ。佐恵さんとは先程まで一緒にいましたし。
藤　巻　じゃあどうして今、一緒にいないんです。
糠　岡　それは…、まだ言えない事情もありまして、
藤　巻　吉貫先生が亡くなったんでしょ？
メガネ２　え！？
糠　岡　困りますよ、まだ公表前です。
藤　巻　どうしてすぐ公表しないんです？
糠　岡　もう１時半ですよ？
藤　巻　佐恵が出馬を承諾するのを待ってるんじゃないでしょうね？
糠　岡　…。
藤　巻　諦めてください。佐恵は僕と平穏な暮らしをするんです。
糠　岡　あなたとの交際を反対した覚えはないですよ。
藤　巻　当然です。反対する資格がない。

糠岡　結婚している方が主婦層にも受けますし。
藤巻　ですから出馬は、
糠岡　ところで、藤巻さんもどうですか？
藤巻　は？
糠岡　吉貫先生のお嬢さんのお婿さん。その肩書きだけで充分、勝てますよ。早く籍を入れてください。
藤巻　あなたは選挙の話ばかりだ。
糠岡　佐恵さんは出ますよ。
藤巻　…なにを根拠に。
糠岡　断るつもりなら、あなたのもとへ真っ先に帰ったでしょう。こんな時間まで探しているのはあなたの電話に出ないから。
藤巻　…電話はありました。ただ、ちょっとつながらなくなって、
糠岡　本当ですか？
藤巻　…。

藤巻、去りかける。

糠岡　どこへ？
藤巻　…。

藤巻、返事をせずに去っていく。

糠　岡　行くぞ。

メガネ　どこに？

糠　岡　あいつより先に佐恵さんを見つけるんだ。

メガネ　あの、吉貫先生って、

糠　岡　あぁ。誰にも言うな。ほら、

メガネ２　放火魔はどうするんですか？

糠　岡　…夜回りの連中に任せておけ。

糠岡、去って行く。

メガネの女達、戸惑いながら後を追う。

舞台が転換する。

同時に政雄が現れる。

１１．　中古車販売店（２６時）

そこは中古車販売店だ。
店は閉まっているが、ついたままの誘蛾灯がバチバチと音を立てている。
政雄が何かを見ている。

政雄　４０万切るのかよ…。

そこへ佐恵がやってくる。
佐恵は放置自転車からはずしたライトを持っている（後に使う片手のダミー隠し）。

佐恵　あ…、
政雄　（気がついて）探したんですよぉ！
佐恵　探してるようには見えませんでしたが。
政雄　…（佐恵の手のライトを見る）
佐恵　捨ててあった自転車からはずして、
政雄　あぁ。あ、いや、これ、グロリアワゴンが３９万って言うんでね、つい。
佐恵　…車のことはわからないので。
政雄　乗ってたんです。３０年くらい前に。独立して数年で会社がようやく軌道に乗りまし

てね、買ったんです。社用車ですけどね。休みになると榛東村にため池あるでしょう、いくつも。その中の桃泉って、曲げわっぱみたいな形した池が高台にありまして…、

佐恵　…、

政雄　池のこともわかりませんよね。

佐恵　…続けてください。

政雄　え？

佐恵　ちょっと、意味のない会話がしたいので。

政雄　…。

佐恵　すいません。

政雄　いえいえ、…つまらない、池なんです。整備された貯水池ですから。自然があふれているわけでもなく。で、ぼーっとみて、つまんないなぁ、つまんないなぁ、もう帰るかぁって振り返ると、帰り道の坂がさーっとまっすぐ伸びて駐屯地やら新幹線の高架やらが見えて、こう…、……。

佐恵　絶景なんですか？

政雄　つまらないんです。池も坂もどちらもつまらないんです。それがその、休みの日の最後に見るのにふさわしいんです。

佐恵　わかります。

政雄　いいえ、わかってないはずです。

佐恵　え？

政　雄　どこにもでもありそうな素朴さが逆に魅力…みたいな、B級グルメを褒める時のような価値もないですからね？。ただただつまらないんです。でも、つまらないものがつまらないままでいられるのが、私は好きなのです。

佐　恵　…すいません、わかりません。

政　雄　よかった。簡単にわかられちゃうと、それはそれでさびしい。

と、男が現れる。

メッシュのベストに、手にはバットを持っている。

男　おい。

政雄・佐恵　！？

男　触ったろ？

政　雄　はい？

男　この車に触ったろ？

政　雄　あ、いえ、見てただけというか、これは商品かと…、

男　商品だよ。

政　雄　あ…、

男　妖怪か？

政　雄　は？

男　丑三つ時に中古車見る妖怪なのか？

政雄　…昔、乗っていた車だったので、

男　イタズラか？

政雄　違いますよ。

男　ボンネットに１０円玉でシャコタンブキって書くつもりだったんだろ？

政雄　まさかまさか。

佐恵　行きましょう。

男、バッドで佐恵の腕を折る。

佐恵の腕、逆の方向に９０度曲がる（ダミー）。

佐恵　痛ぁっっ！

政雄　なにを、あんた！

政雄と男、揉み合う。

政雄が揉み合いに勝ち、バットを遠くに放り投げる。

男　くそう…、

政雄　ご苦労様です。

佐恵、ダミーの腕を捨てて、本物の腕を生やしながら、

佐　恵　労ってる場合ですか、この人、私の腕を折ったんですよ！

政　雄　でも…、

佐　恵　私が再生能力の高い身体をしてたからよかったものの、普通、

男　　中古車泥棒への当然の報いだろ。

佐　恵　ですから違いま、

政　雄　パトロールをしてたんです、夜回り隊として。

男　　夜回り隊？

政　雄　はい。

男　　なんだ、仲間か。

政　雄　は？

男　　こっちは夜回りの会だ。

政　雄　え？

男、自警団（夜回りの会）の人だった。

佐　恵　…お店の人じゃないんですか？

自警団　こんな時間に店番するバカがどこにいんだ。
佐　恵　じゃあなにを、
自警団　それはこっちの台詞だろぉ！
政　雄　（佐恵をなだめて）まぁまぁ、
佐　恵　私？
政　雄　あの、そちらの会はどういった？
自警団　あ？
政　雄　よろしければ参加させて頂いて、一緒に行動を。なにぶん、こちらは一人でして。
自警団　そうか。こっちも一人の会だ。
政　雄　…えっと、
佐　恵　つまりお一人で、午前２時に、他人の店の警備をしていると。
自警団　言っとくけど、頼まれてやってるわけじゃねぇからな。
佐　恵　勝手に警備をしていると。
自警団　勝手ではない。ここにはり紙がしてあるだろう。読めないのか？
政　雄　「夜間、立ち入り禁止」
佐　恵　これはお店の人が書いたんですよね？
自警団　誰が書いたかが問題か？
佐　恵　あなたが書いたものではないのに、なぜ…、
自警団　六法全書だって他人が書いたものを、みんなで守っているじゃないか。

佐　恵　それとこれとは、
自警団　そもそも他人の敷地内に立ち入っておいて、見上げた態度だな、おい。
佐　恵　…。
自警団　どうしてこんな簡単なルールも守れないんだ！恥ずかしいとは思わないのか？！
佐　恵　人の腕を折るのもルール違反です！
自警団　そうだ、そういうことだよ、そういうことが許せないんだ。
佐　恵　なにを…、
自警団　お前達がルールを破ったことで、私もルールを破るはめになったわけだろう？
佐　恵　…？
自警団　赤の他人を巻き込んだことを大いに反省してもらいたい。
政雄・佐恵　（顔を見合わせる）
自警団　言い換えれば、だ。お前達のルール破りを事前に止めることが出来なかった故に、自分も罪を犯す羽目になったとも言える。もっと真剣に、夜回りをすべきだった。…しかし、たった一人でなにが出来ようか。夜は長く、この町は広い。

自警団、すっかりしょげて座り込んでしまう。

佐　恵　…あの？
自警団　ふがいない。俺はほんとうにふがいない。

政　雄　ですからご一緒に…、

佐　恵　やめてください。

自警団　待てよ。そもそもお前達にルールを破らせた者は誰なのか？

佐　恵　（政雄に）とりあえずここを離れましょう。

自警団　そうか、この店の店主だな。

政雄・佐恵　…？

自警団　このはり紙に抑止力がないのだ。ここに「夜間、立ち入り撲殺」と書いておけばこんなことにはならなかったかもしれない。もしくは囲いを作る。お堀を掘って水を張る。城壁に開けた穴から火縄銃で狙い撃ちする。

政　雄　狭間ですね。

自警団　え？

政　雄　城壁に開けた穴を狭間と言います。

佐　恵　今、そんな話…、

自警団　狭間…、ありがとう。

自警団、捨てられたバットを拾い、

自警団　では。

政　雄　どこに…？

自警団　諸悪の根源は、店主が敷地内に狭間を作らなかったことだと判明しました。

佐　恵　（政雄に）ほらぁ、

自警団、去りかける。

佐　恵　待ってください！なにをするつもりですか？

自警団　ご安心ください。私は「罪を憎んで人を憎まず」という言葉が好きです。だので、店主のことも憎むことなく、粛々と排除します。この世から。

佐　恵　同じことでしょう？

自警団　諸悪の根源を前に、なにもしないなんて、俺はそんな弱虫ではいたくないんだ。わぁーーーー！

自警団、走りだす。

同時に幕が政雄と佐恵を隠す。

曲がかかる。

自警団　俺は走った！ついたばかりの嘘を抱えて、走った！なにが諸悪の根源だ。仕事をクビになったから、憂さ晴らしがしたいだけさ。我ながら傑作の言い訳だ。大学で、弁論部に入っていたかいがあった。学食でうどんに紅ショウガかけて喰ってたあの日々。

思い返すとなぜだかVHSの褪せた色あいで再現される。ちゃんと就職すりゃよかった。卒業してフラフラして、バイトとバンドを転々としてるうちに１０年。３４のあの夏の、練習スタジオの帰り道、突然、「嗚呼、ここまでだな」と、わざとギターを忘れて電車を降りた。俺のフェンダー・ストラトキャスターよ。一人でなら、きっともっと遠くへ行ける。中央線に連れてってもらえ。（ＳＥ　発車ベル）…まっすぐに伸びる高架の線路。俺の視線の向こうで荻窪を越え、振り返らずに消えていった。それで俺は、そのまま反対側のホームから、実家へと続く列車に乗った。

曲、乗り変わる。

自警団　新宿、高崎と乗り継いで、最終電車で渋川に着いた。背中まるめてあぜ道を実家へ向かうその途中、月と榛名山に一礼する。ここまで２時間半。たった２時間半の向こうに東京があって、そして今はもうない。

幕が通り過ぎ、三脚に置かれたカメラが現れる。

自警団　七つほど面接で落ちた後に、３５才になった新入社員は、小さな映像制作会社で、結婚式の撮影の仕事についた。

声　「新郎、新婦の入場です」

自警団、カメラをパンして、シャッターを切る。

自警団　大安、友引が来る度に、誰かが誰かを幸せにすると誓っていた。ところが、いつまで経ってもこの町は無茶苦茶なままなのだ。どれだけ幸せな２人を世に放てば、悲しいニュースがなくなるのか？…４６才の冬の日に、俺はついに気付いたのだ。ヤツらは自分の幸せを、他人に還元できないと。ならば俺がこの町を守ってみせると立ち上がって早５年。５１才の夜回りが、今、諸悪の根源に向かって走っている！…どこの誰だか知らぬ人を罰してみせます、懲らしめます！これがオイラの生きる道！

自転車のブレーキ音と同時に幕が。

１２．　どこかの路上（２６時半）

幕が通り過ぎると、万田と高梨と自転車が。
脇で自警団の男が倒れている。

高　梨　一晩で２人も轢く！？
万　田　誰かがライト盗んだからよぉ。
高　梨　（突如声を潜め）ね？…なんか動いた。
万　田　え？
高　梨　…ほら、誰かいる。……３人、４人か、…４人いる。

万田、そっと近づき、また戻ってきて、

万　田　よし、逃げよう。
高　梨　え、見られてないかな。
万　田　どう考えても、向こうの方が見られて困ることをしてそうだ。
高　梨　え、なに？
万　田　いいから。

万田と高梨、去っていく。

同時に幕が開き、政雄と佐恵が現れる。

１３．　また別の路上（２７時）

政雄　…いませんね。

佐恵　え？

政雄　放火魔。４人組の。

佐恵　…。

政雄　送ります。どちらへお帰りになりますか？

佐恵　…駅に。

政雄　駅？電車は走ってませんが。

佐恵　…じゃあ、ここで。

佐恵、去りかける。

政雄　いえいえいえ、…危ないですから。

佐恵　…。

政雄　お連れしますよ。糠岡さんのところに。

佐恵　まだそんなこと言ってるんですか？

政雄　いえ、私はただ危ないと思って、

佐恵　万が一、私が議席を継いだとして、あなたのようにすり寄ってくる人に便宜を払ったりしませんよ。

政雄　…。

佐恵　すいません。

政雄　吉貫先生は、そういう表現は使いませんでしたよ。

佐恵　え？

政雄　だって〝すり寄る〟だなんて。そんな…、本当のこと言ってどうするんですか。

佐恵　…。…今日、事務所の前で会ったじゃないですか？

政雄　あぁはい。

佐恵　あの時、父の味方のように見えたかもしれませんが、

政雄　娘さんですから。

佐恵　私だって父の悪評は気づいています。

政雄　…。

佐恵　その上で言わせてもらいますと、あなたも父も同じです。

政雄　…。

佐恵　あなただけでなく後援会のみなさん全員、共犯関係ですよね？あなたは正しい人ではなく、悪巧みからイチ抜けただけの人です。

政雄　その通りと言いませんが、違うとも言い切れません。

佐恵　「これ以上はよくない」と思っただけで、そこそこの利益は受けていたわけですよね？

政雄　はい。それを棚に上げて、私は警察に駆け込みましたが、誰も真面目に対処して

くれませんでした。弁護士団体にも相談しましたが宗教に勧誘されただけでした。

佐恵　言い訳ですか？

政雄　（答えずに）対して、吉貫先生は一生懸命、隠蔽に奔走されました。ありとあらゆる手で。よくまぁ、こんな一介の造園業者の口封じにそこまでやれるな、と。

佐恵　…それは、申し訳ない（ですけど）、

政雄　違うんです。そんなこんなで私は思ったんです。善悪は立場で変わるものですから、それを基準にしては生きていけないと。これからは熱意を物差しにしようと。吉貫先生はそれはもう一生懸命でしたから。

佐恵　…。

政雄　…私は、先生が悪事に注いでいたほどの熱意でもって、正義を全うできませんでした。

佐恵　…だからって、

政雄　一生懸命な人が報われる世の中であって欲しいじゃないですか。先生が勝った方が、世界は健全です。

佐恵　…。

政雄　べらべらとすいません。話は単純です。どうか、出馬して、私に利権をください。

政雄、土下座しようとする。

佐恵　土下座するなら帰ります。
政雄　（戻りつつ）こういう感情表現を毛嫌いしないでください。
佐恵　土下座でなにか手に入れられたことはあるんですか？
政雄　それはもう若い頃は、どんな女もこれでメロメロ…、
佐恵　同情されていただけでは…？
政雄　同情は愛情の始まりですし、ひとかけらの愛さえあれば、大きな愛へ育てることが出来ますから。…そう考えると、年をとって、愛を大きくするのが下手になりました。
佐恵　…。
政雄　佐恵さんは、私にひとかけらの同情もありませんか？
佐恵　…。

と、糠岡が現れる。

糠岡　お取り込み中ですか？
佐恵　あ！
政雄　糠岡さん…、（駆け寄って）すいません、持ち場を離れたのには訳がありまして、
糠岡　あぁいいんですよ。
政雄　いやほんとうに、聞けばなるほどという訳がありますので、どうかお耳を拝借、
佐恵　…。

糠岡　ちょっと黙って。おい。

糠岡が袖に声をかけると、半被の女が現れる。

糠岡　この人が中田さんだ。

半被　間違いないです。

政雄　え？

糠岡　うーん、中田さん。困りましたね。

政雄　あ、これですね、お返しします、お返しします。

政雄、慌てて半被を脱いで、半被の女に返す。

糠岡　気をつけろ。コウモリがいる。

半被　大丈夫です。（コウモリを掴んで）私が呼んだヤツですから。

半被の女、政雄のポケットから突き出たライター（一政から奪ったもの）に気づく。

半被　…それ？（と手に取って）糠岡さん。

政雄　…あ。

糠岡　（受け取って）中田さん。本当に困りましたね。

政雄　…。佐恵さん、私の擁護をしてくれますか？

佐恵　…。

政雄　これは息子が、いや、誰のかはわかりませんが、

佐恵　あなたを信じるより、疑うほうが楽だと言ったら傷つきますか？

政雄　…。…なるほどと思ってしまいます。

佐恵　すいません。

政雄　では。…ヤマシタ！

ヤマシタ、「キイ」と鳴いて、政雄のもとへ。

政雄、ヤマシタを掴むと走って逃げる。

糠岡　追うぞ！

半被　はい！

糠岡・半被の女、政雄を追って去る。

佐恵　…。

佐恵、携帯を見る。充電は切れたまま。

佐　恵　…コンビニ、

と、糠岡が戻ってきて、

糠　岡　佐恵さん。

佐　恵　（電話をしまって）はい。

糠　岡　…。

佐　恵　…なんでしょう？

糠　岡　図書館の仕事は楽しいですか？

佐　恵　…どういう誘導をしたくて聞いてるんですか？

糠　岡　世の中の役に立っているお仕事ですか？

佐　恵　…わかりませんけど、え、政治をやる方が上だと言いたいんですか？

糠　岡　理解したいだけです、佐恵さんのことを。無責任に先生のあとを継ぐように言ってしまったと思っていまして。

佐　恵　…本って、…借りた本が面白いのか、読むまでわからないですよね？

糠　岡　え？えぇ

佐　恵　私も読んだことのない本はわからないまま貸すことになります。お互いなんだかわか

らないものを、真顔で貸し借りするのが、…好きです。

糠岡　…？

佐恵　図書館ってそうでしょう？みなさん、真顔で、小声で、そっと人生を変えていきます。

糠岡　…最後の部分がわかりませんでした。…人生を？

佐恵　本を読んで突然人生が変わることあるじゃないですか。

糠岡　あぁ。

佐恵　はい。

糠岡　でも錯覚ですよね。本自体が直接、人生を変えるわけじゃないわけで。

佐恵　いや、

糠岡　もっと具体的、直接的に、人の暮らしに作用する方法がありますよ。

佐恵　出馬しません。

糠岡　先生の地盤を活かして、善行を積み上げる政治をすればいいじゃないですか。

佐恵　それでいいんですか？糠岡さんは、賄賂で私服を肥やしたい人なのかと思ってましたが。

糠岡　そんな、時代劇の越後屋じゃないんですから。それに政治家の娘にしては、想像力が貧困じゃないですか？政治＝金だなんて。

佐恵　…怒ってるんですか？

糠岡　私はお金が欲しいんじゃないんです。具体的、直接的に、人の暮らしに作用したいんです。

佐　恵　具体的、直接的に説明してもらえます？

糠　岡　我々の決断で、沢山の人を合法的に、貧乏にしたりできます。苦しませたり、悩ませたり、絶望させたり、人の暮らしをいじれるのです。こんな楽しいことはありません。私は、給料が出なくても、政治家の秘書を続けますよ。バイトしながら夢を目指すバンドマンと同じです。この仕事、金じゃないんです。

佐　恵　…。…沢山の人を合法的に幸せにしたりするのは楽しくないんですか？

糠　岡　初歩はそれでいいと思います。佐恵さんもまずは庶民の幸せを考えてください。でもすぐに物足りなくなります。簡単なんですよ、庶民の心を満たすのは。やりがいを感じるのは、その次の段階からです。悪政を敷きながらいかに当選を繰り返すのか、そのスリルが、

佐　恵　そんな話されて、私が「じゃあやります」って言うと、

糠　岡　思ってません。こちらで用意した脅迫材料を元に、「やります」と言わせるつもりですから。

佐　恵　…え？

糠　岡　元々、あなたの身辺調査をさせて頂いてます。出馬する上で、敵陣営に弱味を握られないようにするためです。ただ、出馬しないとなると、これは敵とマスコミに売ることになる情報です。

佐　恵　…もしかして、

糠　岡　心辺りがおありですね？

佐　恵　…私の、下半身に関する、
糠　岡　ビンゴ。まさに下半身スキャンダル。
佐　恵　待ってください、確かにお尻に大きな蒙古斑がありますが、あれは、
糠　岡　違います。蒙古斑のことではないです。
佐　恵　（制して）あの蒙古斑は変わった形をしていて、それについて様々な誤解を受けてきましたが、
糠　岡　その話ではないんです。
佐　恵　形が、フリーメイソンのシンボルマークに似てると言いたいんですよね？。
糠　岡　ですから違います！
佐　恵　うちはフリーメイソンよりも中曽根派の流れですから。
糠　岡　聞いてください！…これはあなたの非常に身近な人間からのたれ込みです。弁明の余地なしでしょう。
佐　恵　…なんですか？
糠　岡　…あなたは３Ｐを、
佐　恵　ガセネタですね。
糠　岡　まだ最後まで、
佐　恵　実行委員の１人が自信満々に勘違いしてましたね。そう、あなたにそっくりの子ですよ。…あいつ、親衛隊とか言っておきながら、
糠　岡　…くそう。こうなったら、あんたも殺すか。

佐恵　え？

糠岡　吉貫家は親子で死去。次の選挙は秘書の弔い合戦…。いけるかなぁ。縁の下の力持ちが似合ってたきたが、二年前に結婚して、いよいよ私も真ん中に立たなければと思ってたところなんだ。うーん、一念発起しちゃおうっかなぁ。

と、藤巻が現れ、糠岡を殴り倒す。

佐恵　遅い！

藤巻　電話がつながらないからだよ！

佐恵　それでも見つけてくれるかなって思ってた、愛があれば。

藤巻　愛はあるけど万能じゃないよ。

佐恵　…荷物は？

藤巻　持ってきた（と鞄を渡す）

佐恵　（鞄を探る）

藤巻　だいぶ捨てたけど。本当にいいんだな？

佐恵　ないよ、棚の上の本、持ってきてって、

藤巻　入れたよ。

佐恵　（本を取り出して）これは読み終わってるから。途中のやつが、

藤　巻　後で買ってやるよ。

佐　恵　車の中で読みたかったの。

幕が通り過ぎ、箱椅子を３つ、置いていく。

藤　巻　いいから乗れよ。行こう。

14.

２台の車中（午前４時）

藤巻、車（箱椅子）に乗り込み、エンジンをかけるような動作で、着替えていく。

佐　恵　うん。これってグロリアワゴン？

佐恵、助手席に座る。

藤巻（一政）　なに言ってんだよ、プジョーの２０８だよ。

と、言った時には藤巻はもう一政である。

同時に反対側に政雄が現れる。
３つの箱イスで、一政（藤巻）を挟んで、右側に佐恵。左側に政雄の状態。
右２つ、左２つを交互に照明で区切り、２台の車を表現する。

一　政　ほら、乗れって。親父。
政　雄　…かっこつけて、左ハンドルなんか。
一　政　今の外車はこっちの方が安いんだよ。
政　雄　お前のせいだからな。

政雄、車に乗り込む。

一　政　なにが？
政　雄　お前のせいで放火魔扱いだ。
一　政　後で謝るよ。

ＳＥ、エンジン音。
車が走りだす。
照明切り替わる。車内ではラジオが流れている。

佐恵　なんで謝るの？
藤巻　そりゃ深夜に突然辞めるって言うんだから、謝るだろ。しかも２人とも。
佐恵　…なんて言ってた？館長。
藤巻　「おめでとう」って。
佐恵　は？
藤巻　結婚すると思ったんじゃないか。
佐恵　…あぁ。…で？
藤巻　ん？
佐恵　なんて返事したの？
藤巻　ま、別に。なにも。
佐恵　え、ちゃんと否定してよ。
藤巻　「２人でこの町、出ていきます」なんて言えないだろ。勘違いしてもらってる方が楽だよ。
佐恵　…。
藤巻　っていうか、なんだよ。
佐恵　え？
藤巻　結婚しないのかよ。
佐恵　…するんじゃないの。
藤巻　はぁ！？

政　雄　大声だすなよ。

照明、切り替わる。
車内の音楽、止まる。
政雄が車内でタバコを吸っている。

一　政　消せよ。匂いがつくだろ（と取り上げようとする）
政　雄　（よける）
一　政　おい！
政　雄　クーラーの効いた場所で吸うの久しぶりなんだ。
一　政　え？
政　雄　どこの店でも吸えないからよ。炎天下で吸ってもまずいし。もう夏に吸うもんじゃないんだな、タバコは。冬は冬で寒いぞ。
一　政　この機会にやめろよ。
政　雄　これからは春と秋に吸うのが旬だな、タバコは。季節の嗜好品だよ。
一　政　いい風に言うなよ。
政　雄　季節はいいよ。変わり映えのしない毎日に唯一、変化をもたらしてくれる。季節のない国に生まれた人は、どう折り合いをつけているのだろう。
一　政　…少し寝ろよ。起きる頃には東京だ。

政雄　東京って言うな。まだ受け入れられてない。
一政　じゃあ、
政雄　黙って連れていけ。
一政　……あぁ。黙ってるよ。
政雄　…やれやれだな。

照明、切り替わる。
車内に音楽が流れている。

藤巻　やれやれってなんだよ！
佐恵　大きな声、出さないで。
藤巻　佐恵は前から決めていたことかもしれないけど、俺は今夜突然言われて、家も仕事も捨ててきたんだぞ？
佐恵　嘘つかないで。
藤巻　ほんとだよ。
佐恵　深夜に不動産屋とどう連絡とるの。館長だって、電話一本で辞めさせてくれるわけないじゃん。手続きとかいろいろあるんだよ。
藤巻　あるだろうけど、辞めたんだよ。
佐恵　ヨシ君がそう思ってても、なにも捨てたことになってないんだよ。口だけじゃん。本

も持って来ないし！

藤　巻　そうかもしれないけど。え、でもどう思ってたかも大事でしょ？

佐　恵　大事だよ。

藤　巻　なら、

佐　恵　大事なだけで使い道がない。

藤　巻　あ！

車を止める。ドコドコとなにか踏んだ音。

佐　恵　なに急に？

照明、切り替わる。

一　政　いや、なんか轢いたんだよ。

政　雄　は？

一　政　道になんか落ちてた。

一政、車を降りていく。

政雄　（窓を開けて）…野良犬か？

一政　…いや、もっとでかい。

政雄　牛か？

一政、袖からなにやら引きづり出す。

それは人の足である。

一政　人だな。

政雄　は？

一政　吉貫だ。

政雄　…！？

一政　吉貫健三を轢いちまった。

政雄、車を降りる。

一政　やばい、どうしよう。

政雄　待て待て待て、おかしい。先生はすでに死んでるはずだ。

一政　は？

政雄　今夜、死んだんだ。佐恵さんに聞いたから間違いない。

一　政　なんで？

政　雄　腹上死だよ。料金所の先の風俗店で。

一　政　プラチナエンジェル？

政　雄　さぁ。

一　政　ラブドルチェ？ピンキークレオパトラ？

政　雄　いや、

一　政　あ、多恋人ショコラ？多い恋人って書く、

政　雄　店名はどうでもいいだろ！バカ！

一　政　ごめんごめん。

政　雄　しかし、なんで死体がこんなところに。

と、そこへギターを持った江古田が現れる。

政　雄　誰だ！？

照明、切り替わる。

政雄、はける。

佐　恵　ちょっと…、急ブレーキ、やめて！

藤　巻　人が立ってんだよ。
江古田　…。
藤　巻　ねぇ、危ないよ、道の真ん中で。
江古田　（詩的なことを言う）
藤　巻　酔ってます？
佐　恵　待って！

佐恵、車を降りる。

藤　巻　近寄らないようがいいよ。
佐　恵　もしかして、江古田恭作さんですか？
江古田　（ブルースハープで答える）
佐　恵　やっぱり！
江古田　（「ヒッチハイクをしている」と意味を詩的に）
佐　恵　あの、どちらまで？
江古田　（「ホテル」と詩的に）
佐　恵　あ、ルートイン渋川ですよね？お連れします。
江古田　…？
佐　恵　あ、私、明日のお祭りの実行委員なんです。宿泊先の手配も私がしたので。

江古田　…。
佐　恵　乗ってください。
藤　巻　おい。
江古田　こちらの方は？
佐　恵　あ、えっと、彼氏です。
藤　巻　どうも。藤巻と申しま…、
江古田　吉貫さんの？
佐　恵　はい。…あ、え？
江古田　ん？
佐　恵　ありがとうございます。名前、覚えてもらってるみたいで。
江古田　…。
佐　恵　マネージャーさんから？、あ、先程マネージャーさんにもお会いして、
江古田　これ、持っててもらえます？

江古田、ギターを佐恵に渡す。
受け取る佐恵。
江古田がネックを引くと、ネックだけがボディが抜けた。
ネックは仕込み刀になっている。

佐　恵　え？

江古田、仕込み刀で藤巻を袈裟斬りに斬って捨てる。

藤　巻　！！！

藤巻、袖の中に後ろ向きに倒れ込み、足だけ残して消えた。足はダミー。

佐　恵　えぇ！？

江古田　…。

佐恵、袖をのぞきこんで、

佐　恵　…まっぷ、…まっぷ、…まっぷぅ！

江古田　ん？

佐　恵　真っ二つ！になってる！

江古田、佐恵に向かって刀を構える。

佐　恵　なにがなにやら…

と、涼花が現れる。

涼　花　…ごめんなさいね、突然のことで驚いたでしょう。

佐　恵　（藤巻の死が受け入れらず、呆然としたまま）あなたは…、

涼　花　６時間ほど前にお会いしましたね。

佐　恵　（呆然）えぇ？

涼　花　リップスティックアゲハの涼花です。

佐　恵　（まだ呆然）…そんな店名だったんですね。

涼　花　同僚を紹介します。

女が次々と現れて、

イザベラ　イザベラです。

佐　恵　（呆然と繰り返し）…イザベラ、

バンバー　アフリカ・バンバータです。

佐　恵　（呆然と繰り返し）…アフリカ・バンバータ、…（少し我に返って）アフリカ・バンバータ？

涼　花　私達をご存じかしら？
佐　恵　（藤巻を殺された恐怖をじわじわと感じつつ）江古田恭作さん。
バンバー　私達は二世議員の目を摘む会よ！

派手なジングル。
一同、決めポーズ。
涼花、ポーズに間に合わない。

涼　花　あなたも政治家の娘なら、一度は耳にしたことがあるんじゃなくて？
佐　恵　…（まだ怖がりながら）ポーズが、…間に合ってなかった人がいる…
涼　花　それは見逃して。
バンバー　私達は、これ以上、間抜けな二世の蔓延を阻止するために作られた闇組織よ。
佐　恵　…父も、あなた達が殺したんですか？
バンバー　それは偶然。
イザベラ　あなたの情報を集めるために吉貫健三のハートを掴んだところまではよかったけど…、
バンバー　涼花ちゃんがちょっと本気を出し過ぎちゃったのよね。
涼　花　おしょろこま、おしょろこま。
イザベラ　ちょっと計画が狂ったよね。死体の処理にも困ったし。

佐　恵　…待って、父の遺体は？
バンバー　江古田さん？
江古田　…面倒くせぇから、国道に放り投げておいたよ。
佐　恵　ちょっと！
江古田　今頃、間抜けな男が自分が轢いたと勘違いして、オロオロしているところだろ。

一同、ケラケラと笑う。

佐　恵　…え、私、殺されるんですか？
涼　花　えぇ。
佐　恵　あぁ…、……なるほど。
イザベラ　落ち着いちゃった。
バンバー　怯えてるだけでしょ。
佐　恵　いや、なんていうか、父が敵の多い人だったんで。似たようなことがなかったわけじゃないというか、子供の頃にも誘拐されかけてますし。父の事務所にトラックが突っ込んだり、同級生の土建屋のお父さんが談合からはずされて、「吉貫、憎し」と遺書に書いて亡くなったり、…そう、その時に、担任の先生が、朝礼で泣きながら言ったんですよ。「みなさんは、〝親の因果が子に報う〟って言葉を知ってますか？」って。
イザベラ　うわぁ…、

佐　恵　みんな、まっすぐ先生の方を向いていたんですけど、でも全員の感情が、私の方を向くのが音になって聞こえたんです。ざざーんって。

一　同　…。

佐　恵　先生の言葉にもみんなの態度にも私は大きく傷ついたんですけど、でも、その、感情を音で聞けたのは嬉しかったんです。形のないものを頼りにするの不安じゃないですか。でも好きって感情とかに頼らないといけない時あるじゃないですか。で、高いプレゼントで形にしたり、あと、お互いの身体を触りあったりして、感情の輪郭を、探すじゃないですか。で、その時は嫌な感情でしたけど、音ではっきり聞けたので、あぁ感情ってあるなって。これからも見えないまま頼りにして大丈夫だなって。

イザベラ　ごめんなさい、なんの話？

佐　恵　うーん…、わかんなくなっちゃったんですけど、あ、真っ二つで死ぬの痛いし怖いんで、感情で殺してください。

江古田　（詩的に共鳴したことを伝える）

佐　恵　どうしよう、なに言ってるか全然わかんない。

江古田　（構える）

佐　恵　え、やだやだ、やっぱ、やだ。おかしいじゃん。だって市議会議員の娘ですよ？もっと他に有名な二世議員いるでしょ？

イザベラ　私達も生活があるんで。無理ない範囲で人を罰したいの。

佐恵、逃げようと後ろを向く。
その背中に、江古田が刀を振り下ろす。

佐恵　熱い！

音楽

佐恵　斬られた瞬間、痛みよりも熱さが勝って、それからじきに寒くなって、きっとそれは飛び散った血の熱と血の気が失せた体の冷え。自分の血で足がすべって、外灯が流れ星のように過ぎていく。同時によぎる、読みかけのあの本のあの物語。しおりの先は、なにが書いてあったんだろう。想像するだけでワクワクする。…知らないのことの中にしか、もう希望はないのかもね。知ってることはなにもかも絶望だらけでまいっちんぐ。

佐恵、ゆっくりと倒れていく。
江古田は二の太刀を構える。
佐恵、思わず手で避けようとする。
その手にメガネが。

佐　恵　あ…、

佐恵、咄嗟にメガネをかける。
佐恵はメガネの女２になった。

バンバー　待って！！
江古田　ん？
バンバー　この人、違くない？
江古田　え？あれ？

一同、メガネの女２をじっと見る。

メガネ２　…ちょっと、なんですか？
バンバー　（メガネ２に）すいません。
涼　花　…バカ、しまって！
メガネ２　なんか今、刀みたいの、振り上げてませんでした？
バンバー　いえいえいえいえ、誤解です。
メガネ２　え、通り魔ですか？通報しますよ？
江古田　ですから違うんです。

メガネ２　（殴る）
江古田　痛！
メガネ２　この暴力主義者が！
江古田　…なにすんだよ
イザベラ　まぁまぁまぁ…、
涼　花　騒ぎはまずいぞ。我々は闇組織だ。
イザベラ　っていうか、え、あの人、どこいっちゃったの？
バンバー　探そう！逃げられたらまずい！
メガネ２　ちょっと話の途中！
一　同　（口々に）すいません／失礼します／人違いなので

一同、ガヤガヤと去っていく。
メガネの女２、ホッとしたのか膝をつく。

メガネ２　…今夜、私が知ったこと。致命傷を負ったとて、別の役になりきれば乗りきれる。
前へ進める。これからなにが起ころうと、次の役へ、また別の役へ…、なりきろう、
なりきります、なりきる、なりきる時、なりきれば、…なりきれ！

メガネの女２、ばったりと倒れる。

が、再び、立ち上がり、メガネを取り、今まで登場してない上着を羽織り、知らない役になる。

何かの役　…次の役へ、また別の役へ…、なりきろう、なりきります、なりきる、なりきる時、なりきれば、…なりきれ！

去っていく、何かの役の女を幕が隠していく。

代わりに登場したのは政雄と一政だ。

先程まで藤巻の死体だった足を、吉貫の足に見立てて、ブルーシートでくるむ。

一政　…もうこれでいいよ、埋める前に朝になっちまう。逃げよう（車に乗り込もうとする）

政雄　バカ。死体にくっきりタイヤ痕がついてんだぞ？いずれ捕まる。

一政　…造園業の意地みせろよ、顧客の家の庭に埋めるとかよぉ。

政雄　だいぶ前から顧客なんていねぇんだよ。

一政　くそ。

政雄　いねぇから、こんな一晩、かけずりまってたんじゃねぇか。

一政　……。

一政、ブルーシートを抱えて、

政　雄　どうすんだよ。
一　政　東京まで持って行く。
政　雄　はぁ？
一　政　府中なら死体も珍しくないし。
政　雄　…大丈夫か、その町。
一　政　乗れよ！

一政、荷台に死体を乗せ、運転席へ。
政雄、助手席に乗りかけて、止まる。

一　政　早く！
政　雄　（ヤマシタを出して）…お前はどうする？
ヤマシタ　…。
一　政　乗れよ！多摩川にもコウモリはいるよ！
ヤマシタ「今夜のお前をつぶさにみていた」
政　雄　え？
ヤマシタ「悪人になるには熱意が足りない」
政　雄　…あぁ

ヤマシタ「諦めて、善く、生まれ変わりなさい」
政　雄　…ヤマシタ。
ヤマシタ　…お前に無力な俺だけど、遠くでいつも想っている。
政　雄　約束か。
ヤマシタ「約束だ」
政　雄　ならば、俺もお前をいつも想おう。
ヤマシタ「約束か」
政　雄　約束だ。
ヤマシタ「さらばか」
政　雄　さらばじゃ！
一　政　親父！

ヤマシタ、夜空に飛んでいく。

政　雄　…。

政雄、車に乗り込む。
一政、エンジンをかける。

プジョーが走りだす。
音楽。

政　雄　…検問とかやってねぇよな。
一　政　大丈夫、もうすぐ７時だ。
政　雄　…そんな時間か。

間

政　雄　…にしちゃ暗いな。
一　政　…曇ってんだろ。

間

政　雄　曇りとかそういうレベルの暗さじゃねぇぞ。
一　政　…確かに、はくちょう座がはっきり見えるな。

間

政雄　…どうする。このまま夜が明けなかったら。

一政　…お、ペルセウスが見えたら。いよいよ秋だ。よかったな、タバコの季節だ。

政雄　おい。

一政　夜なんて明けなくていいんだよ。

政雄　え？

一政　こんな死体抱えて、夜明けなんて迎えられるかよ。

政雄　…。

一政　夜は明けなくていいし、雨はやめなくていいし、悪夢は覚めなくていい。

政雄　息子よ。

一政　…うん？

政雄　死体を捨てたら起こしてくれ。

一政　…。…手伝わないのかよ。

政雄　…。（寝てしまった）

一政　…。

一政、政雄が寝たことに気付いたが、起こさない。

プジョーのウィンカーがカチカチと音を立てる。

車は右折しながら溶暗。

【ア】